

会議概要

会 議 名	令和7年度第1回 足立区ひきこもり支援協議会
事 務 局	足立区 福祉部 福祉まると相談課
開催年月日	令和7年8月29日（金）
開催時間	午後6時30分 ～ 8時00分
開催場所	足立区役所中央館8階 特別会議室
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会（会長挨拶） 2 令和7年度協議会委員及び部会員について 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> （1）令和6年度セーフティネットあだち実績報告 （2）セーフティネットあだち「フリースペースの日」実施について （3）メタバースを活用したオンライン居場所の開始について 4 議事事項 <ol style="list-style-type: none"> （1）ひきこもりに関する各種調査について <ul style="list-style-type: none"> ・推計調査「足立区生活状況・意識に関するアンケート調査」 ・ひきこもり本人・家族への調査「ひきこもりに関するアンケート調査」 ・関連事業者への調査「介護の現場から見える「ひきこもり」に関するアンケート調査」 （2）令和7年度ひきこもりの理解と支援のためのセミナーについて 5 意見交換 6 今後のスケジュール・事務連絡 7 閉会（副会長挨拶）
資 料	<p>配付資料</p> <p>会議資料（本資料）</p> <p>別紙資料1 推計調査（案）</p> <p>別紙資料2 ひきこもり本人・家族への調査（案）</p> <p>別紙資料3 関連事業者への調査（案）</p>
そ の 他	<p><u>公開状況：公開</u></p> <p><u>傍聴：0人</u></p>

様式第2号（第3条関係）

（会議経過）

1 開会

○大北課長

皆様、こんばんは。ただいまから「令和7年度 第1回足立区ひきこもり支援協議会」を開催いたします。本日はお忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます。福祉まると相談課長の太北と申し上げます。よろしくお願いいたします。

令和5年に立ち上がりましたこの協議会ももう2年を迎えました。立ち上げの時からご出席いただいている委員の方も、ありがとうございます。

本協議会は公開としており、会議内容を記録するために録音をさせていただいております。ご了承ください。また、記録のために写真撮影も撮らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、今回は、学識経験者の徳丸委員と民生・児童委員の石川委員、SODAの内野委員、足立区社協の荒井委員、足立区の執行機関で絆づくり担当部長の橋本委員が、所用によりご欠席となっております。

今協議会は、おおむね1時間半、午後8時までを予定しております。途中休憩を挟まずに進行いたしますので、水分補給やお手洗いは各自で適宜お願いいたします。

なお、青少年自立援助センターの河野委員につきましては、本日、オンラインからの参加になりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、今日の資料については、次第から始まる会議資料と、今日のメインであります別紙1、2、3のアンケート調査票（案）を進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第の1、開会にあたりまして、

本協議会の会長、藤後会長よりご挨拶頂戴いたします。

会長、お願いいたします。

○藤後会長

会長の藤後です。本日もよろしくお願いたします。

早いもので、本協議会が立ち上がって2年たちまして、今年度は今日が初めての会議となります。後ほど報告がありますが、会議資料の13ページを見ていただきたいと思ひます。令和7年度に入って、いろいろな実績が既に上がっております。

例えば4月からセーフティネットあだちがリニューアルオープンいたしました。私も見学させていただきましたが、本当に素晴らしい内容でスタートしております。ひきこもり支援のリーフレットも配布開始されて、「フリースペースの日」も始まっています。その後、今日のメインの議題になっておりますが、調査に関してもきちんと進んでいる状況でございます。

その中で一つご報告させていただきたい事がございます。令和6年度から、新しく福祉まると相談課ができて、包括的相談支援事業がスタートしています。足立区には区民評価制度があり、区民が参画して、足立区の事業の内容を評価しているものです。すごく大切な評価なのですが、多くの事業がある中で、20事業が重点プロジェクト事業として区民評価の対象となっております。

評価は三つの部門に分かれています。が、「くらしと行財政」分科会の中で、今回、福祉まると相談課が実施している「包括的相談支援事業」が表彰されております。おめでとうございます。素晴らしいと思ひます。

区民評価自体は、数値を含めての成果がどれくらい上がっているのか、また方向性がどうなっているのか等を総合的に判断します。ただ、数値ではなかなか見えづらい部分もございます。所管の方々がその事業について、評価委員の方々にプレゼンテーションを行います。そのコミュニケーションの内容について評価を行い、表彰させていただいております。すなわち、その所管の方々の熱意であったり、その事業に対する思いというものがしっかり区民の方に伝わるかどうかということを見極めて表彰とさせていただきます。そこに選ばれたということでございます。

これは本当に素晴らしいことです。来週には表彰式がございます。ご本人たちからはなかなか報告しづらいと思いますので、私をご報告させていただいております。

(拍手)

ありがとうございます。

実は、区民評価委員会では会長を務めておりますけれども、別にえこひいきしたわけではありません。対象の分科会の評価委員から選ばれております。ぜひ報告させていただきたいと思いましたので、この場をお借りして、皆さんと共有させていただきます。

以上でございます。

○大北課長

会長、ありがとうございました。

資料はお手元に配らせていただいた4点になります。会場入口に資料の余りがございますので、もし必要な方はお持ち帰りください。あわせて昨年度、皆さんにご議論いただいて作成しましたひきこもりのリーフレットと、まるごと相談課のチラシや、カードタイプのご案内、9月15日に足立ひ

きこもり家族会が主催する講演会のチラシ等を、会場入口に置かせていただいておりますので、お帰りの際、ご自由にお持ち帰りいただければと思いますので、よろしくお願ひします。

今回の会議ですが、ご発言いただく際には、お手元のマイクのボタンを押していただき、マイクが点灯しましたら、最初に会議の記録の関係上、ご所属とお名前をおっしゃってください。ご発言が終わりましたらマイクをオフにさせていただきますようにお願いいたします。

それでは、ここからの協議会の進行は藤後会長をお願いいたします。

○藤後会長

それでは、順次、次第に沿って進めさせていただきます。

次第の「2 令和7年度協議会委員及び部会員について」、事務局より説明をお願いいたします。

○大北課長

では、次第から始まる資料の1ページをお開きください。

今年度の本協議会、及びその下に設けております支援検討部会の名簿になります。分かりづらくて恐縮ですが、この令和7年度から変更になられた委員におかれましては、お名前の下に下線を引かせていただいております。こちらでご確認いただければと思います。

ひきこもり支援検討部会につきましては、実は今年度すでに1回開催しており、書面の開催を含めると2回やらせていただいております。1ページ下のこの11人のメンバーで既に検討を始めておりますので、ご報告させていただきます。特に部会のほうの

名簿ナンバー2、3、4の深谷委員、氏家委員、上田委員におかれましては、特に協議会と兼務ということで、何度もお呼び立てして申し訳ございませんが、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

今年度はこのメンバーで協議を進めてまいりたいと思いますので、ご報告させていただきます。

○藤后会長

ありがとうございました。以降、本協議会をお示しの名簿の委員で開催させていただきますので、皆様、よろしく願いいたします。

続きまして、次第の「3 報告事項」に移りたいと思います。

「(1) 令和6年度セーフティネット実績報告」について、事務局から報告をお願いいたします。

○大北課長

では、次第から始まる資料の2ページ、3ページをお願いいたします。

令和6年度のセーフティネットあだちの実績報告になります。

こちらは令和6年度ですので、福祉まるごと相談課が入っている区役所別館1階にある会議室一室で、暫定場所での実績になっております。

2ページの「① 延べ相談件数」ですけれども、延べ480件ということで、電話、来所含めて、様々な対応をしてまいりました。令和5年度との比較の記載が漏れてしまいましたが、令和5年度は延べ954件ということで、一見減ったように見えますけれども、令和5年度はセーフティネットあだちからの架電や、ご連絡した件数も含めておりました。今回、この480件というのは、

純粹に相談に来られた方の件数になっております。会議室一室の中で工夫しながらも、相談を維持できたと思っております。

2ページ下の「② 相談者別延べ件数」です。480件の内訳を見ますと、ひきこもりのご本人からは123件、保護者から240件というところで、保護者からの相談が入り口になっているところが多くなっています。

この実績の内訳としましては、ご本人が来られた123件につきましては、男性が7割、女性が3割という内訳になっています。保護者からの相談の場合は、240件のうち150件強が母親、お母様からの相談で、お父様は88件という内訳になっております。

その他は行政機関、これは福祉まるごと相談課も入りますが、そういったところの内訳になっております。

実相談人数につきましては、③のところを見ていただければと思います。

続いて、3ページです。「⑤ 居場所の利用」で、これはご本人に対して居場所を提供しておりますが、令和6年度につきましては24名の登録がありました。令和5年度は16名でしたので、8名登録が増えたところ です。

ちなみに現在、学びピア21の7階に移りまして、4月から7月までの実績につきましても、14ページ、15ページと後ろに飛びますけれども、こちらに掲載しております。

学びピア21に移ってからの実績になりますが、こちらでは居場所の登録者数が、15ページの上で、32名まで増えていまして、この4か月で、新しい場所になってから増えているという状況でございます。

3ページに戻っていただきまして、居場所利用の実績から見えている傾向ですけれども、延べ528件の利用がございました。令和5年度は450件でしたので、継続して通

っていただいている方が増えてきたというところですよ。

ただ見えてきた傾向といたしましては、528人の内訳を見ていて、やはり20代が202人、30代が201人となっております。こちらの年代の利用が多く、全体の7割を占めています。10代、40代、50代、なかなかこの辺りが居場所としては利用にはつながっていないというところが見えております。

さらに、居場所利用の7割が男性だということで、女性の方の居場所としては、まだまだつながってきていないというところも見えてきているところです。

居場所事業といたしまして、3ページ下をご覧ください。6月以降月1回、色々な形でイベントを実施してまいりました。例えば9月には女子会ですとか、そういったイベントも実施しております。

限られたスペースではございましたけれども、令和6年度はこのような実績になっております。

令和7年度、4月からこの7月までにつきましては、14、15ページを後ほど見ていただければと思います。ただ、この4か月で延べ相談も200件を超えておりますので、令和6年度から見ると、かなり上回るような相談件数となっている状況でございます。

○藤後会長

ありがとうございました。ただいまの報告内容につきまして、ご意見やご質問がございましたでしょうか。何でも構いません。いかがですか。

はい、上田委員。

○上田委員

私も足立区民ですけれども、ひきこもり

の方への周知が、この1年を振り返っても、あだち広報をはじめ、本当に広がったなと思います。

まず、相談件数を見たときに一番、まさに区民の方から求められている、困っている保護者や本人から求められている相談が行われているからこそ、この継続の344件という数字について、私は非常に注目をいたしました。

相談は、まず、やはりなかなか続きづらい。相談しても何も変わらないのではないかと諦めてしまうところが、一番ひきこもりの相談や過去の調査からも分かります。ご質問としては、この継続の344件という数字について継続年数ですね。そこがもし分かればお伺いしたいと思います。私も所属していたKHJ全国ひきこもり家族会連合会の実態調査で、ひきこもり状態の平均年数が大体9.2年から9.7年とか、大体10年近くという調査結果がありますとおり、時間をかけて少しずつ伴走していただきたい。そういう体制を望んでおりますので、この継続といったところももう少し情報があれば、教えていただきたいと思っております。

もう一つ、15ページに、居場所利用の登録32名という数字がございました。実は、足立区の居場所は、登録すると往復の交通費が出るといいます。都内23区、ほかの自治体からもそういう例は聞いたことがありません。非常に画期的で、かつ利用者にとって、この交通費の補助が出て、無料で居場所が使えます。このメリットをしっかりと広報をしていただくことで、もっと利用者登録が増えるのではないかと感じております。

あとは、もう一つ、先日も大北課長、白水係長にお話を伺ったところ、区外の方も

登録ができて、交通費の補助の対象となるということも伺っております。非常に広域的な意味でも、埼玉からの登録者もいるというお話でした。ご質問といたしましては、居場所利用登録の32名の方の、区外・区内の内訳があれば伺いたいということと、今後交通費について広報をどのようにしていくかも、もし見通しがありましたら教えてください。ひきこもり支援リーフレットには書かれているのは、私も拝見しておりますが。あと、登録の期間を設けていないということもしっかり広報していただくとアピールになるかと。年度ごとに更新はするそうですが、更新さえすれば期限の上限を設けていないということは、もうすばらしいと思いますので、こういった居場所の周知方法についても、もし今後ありましたら、お聞かせいただきたいと思っております。

○白水係長

事務局の白水からお答えをさせていただきます。

まず、居場所や相談を継続している方の年数の内訳ですが、こちらについては把握しておりません。ただ今回、後ほどご案内いたしますが、セーフティネットあだちの利用者の方も対象にした実態調査の中で、利用年数をお伺いしようと予定しておりますので、そこで把握させていただければと思います。

それから現在、居場所登録している方の区内と区外の内訳ですが、区外の方で、今のところ登録されている方は2名と伺っております。それ以外の方は、区内の方というところですか。

今後の広報につきましては、またいろいろと検討したいと思っておりますので、部会など

でもご相談させていただければと思います。よろしく願いいたします。

○上田委員

ありがとうございます。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

はい、深谷委員、お願いします。

○深谷委員

こちらの報告事項は、本当に着々と利用件数も、居場所の利用者数、登録者数も上がっているということで、著しい評価があると思っております。これは所感という形での発言になろうかと思いますが、居場所の利用者数の延べ人数で、どうしても女性の40代、50代の方の利用というのが、昨年度ではゼロという数字が並んで、12月に唯一2名の利用がありました。

実は5年前になりますが、KHJが居場所の実態調査をしたときも、居場所の利用者は8割が男性で、2割が女性という数字が出ておりました。特に40代、50代の高年齢の女性が安心して地域社会に出かけられるようなものというのが、もしかしたら、まだまだ潜在的に少ないのかなと、このゼロという数字の並ぶところを見て、改めて受け止めた次第です。

女子会もされていらっしゃると思いますが、これは今、早急にとということではないと思いますが、長い目で見つつ、問題意識として特に女性のひきこもりの方は、40代・50代の高年齢の方は家事手伝いとか、そういうところで本当に見過ごされがちだったりします。実態として親や家族のケアラーのような形で社会参加とか、あるいはシングル

マザーとかのような形で、ひきこもり状態という定義にみなしていかどうか分かりませんが、人間関係が非常に希薄な状態の中、1人で抱え込んでいるような、そういった実態もあるかと思えます。数値上からちょっと想像できる範囲でも、ぜひこの高年齢の40代以上の女性のひきこもりの方やそれに付随する生きづらさ、関係性が著しく乏しい方へのアプローチやケアというのも着目していくべきかなと、そんなふうを受け止めました。

○藤後会長

貴重なご意見ありがとうございます。
何かコメントありますか。

○大北課長

セーフティネットあだちのほうで、現場で感じることはありますか。

○松森委員

今おっしゃっていただいたとおりに、本当に40代、50代の女性が圧倒的に少ない。今回の調査ではそういった実態も把握できるのではないかと、私どもも期待をしております。そうした中で、ただ数としては非常に少ないですが、40代、50代で、もともとお子さんのご相談として私どもに連絡していただいて、実はそのお母様自身が社会から隔離されてしまっているというケースがありました。まだまだニーズがあるので、はと思いながらも、なかなかその層を増やすことができていないので、今後も取り組んでいけたらと思っております。

○大北課長

いきなりセーフティネットあだちの門を

叩くのも気が引けるという方の中には、先に福祉まるごと相談課の方につながってくる方もいると思います。実は、16ページで、福祉まるごと相談で見えた傾向について、令和5年度と令和6年度との比較で書かせていただいております。令和5年度は全体で延べ9,000件の相談内容があり、そのうち267件がひきこもりに関する相談でしたが、令和6年度にまるごとと看板を掛け替えたなら、約100件弱、件数としては増えているところでもあります。

これは、一番最初に受付カード、足立区は「つなぐシート」と呼んでおりますが、それをチェックした数を積み上げております。相談の入口から家族のことで、例えば子どものひきこもりのことで、兄弟のひきこもりのことでいうところでキャッチしている件数が、福祉まるごと相談課になってから伸びてきている部分もあります。その辺りで年齢問わず、決して年齢を問うている窓口ではないので、少しでも福祉まるごと相談課からもキャッチをして、しっかりセーフティネットあだちにつないでいくことができればと思っています。

○深谷委員

ありがとうございました。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。また何かありましたら、後ほどご発言いただければと思います。

では、続けさせていただきます。

続いて、報告事項の2と3、「セーフティネットあだち『フリースペースの日』実施について」と、「メタバースを活用したオンライン居場所の開始について」です。こ

ちらは令和 7 年度から新たに開始された事業の報告になります。

それでは報告事項 2、3 について、一括して事務局からご報告をお願いいたします。

○大北課長

では、次第から始まる資料の 4 ページ、5 ページをお願いいたします。

まず 4 ページ、令和 7 年 5 月から、セーフティネットあだちでは「フリースペースの日」と銘打ちまして、毎月第 2、第 4 火曜日の午後 2 時から 6 時の 4 時間は、特段予約も要らない、入退室も自由、見学だけでもできます、ぜひ来てみませんかと始めました。公共施設に入って運営していくというところもありますので、ここは開かれた場所、ぜひ来ていただきたいというところから開始をさせていただいています。

5 月 13 日から開始し、初回 8 名参加というところからスタートしまして、これまで延べ 47 人の参加がございました。

その中で、先ほど上田委員からもありましたが、実はホームページ等を見て区外から来ましたという方もいらっしやって、自分の自治体に、いいと思える場所がなかったというところから足立区に目が止まり、行ける距離でもあったところで、足立区まで来たというお話を伺いました。もちろん新規の方だけではなく、少しイベント的にもやっているところもあるので、既存の居場所登録の方々についても、交流する場として活用いただいているというところなんです。

あとは、支援者の方が一緒に同行してちょっと様子を見に行ってみないかというところで、まずは雰囲気味わってもらおうというようなどころでも活用させていただいています。引き続き、この「フリースペースの日」としてやっていきたいと思ってお

ります。

あと、5 ページのほう、これは 7 月から始まったものですが、これも「メタバースを活用したオンラインの居場所」というものも新たに始めさせていただいています。こちらについては毎月第 1・第 3 火曜日の午後 1 時から 4 時までの 3 時間というところで始めています。

これまで 3 回開催させていただいて、延べ 4 名参加というところなんです。申込者は、本人 3、家族 3、関係者 1 というところなんです。最初に事前登録をしていただきますが、その際に本人なのか、家族なのか、関係者なのかというところだけはチェックさせていただいています。

入っていただければ、ニックネームでオーケーです。顔を出したくなければ顔も出さなくていいです。声を出すのがまだまだという方については、チャットのみでもいいです。聞くだけでもいいですというところで、ご本人ができる形で参加をいただいております。つながりですとか、ほかの方々との交流のきっかけづくりですとか、そういったところで活用いただければと思って始めています。

カラーではなくて見づらいますが、「個室さくら」と画像の上のほうにあります。そこでは鍵をかければ、周りから会話が聞こえることなく、例えばスタッフと 2 人でお話しできるような空間として設けています。

下のほうで「タヌキ広場」「カバ広場」とありますのは、こちらは画像にありませうとおり、グループトーク、例えばセーフティネットあだちのスタッフがクイズを提供して、それについてみんなが答えを言ったりですとか、声を出すのが苦手な方はリア

クションボタン等がありますので拍手したりとか、そんな交流に使っていかうというところでやらせていただいています。

初日は、実際にひきこもりご本人として入ってきていただいた方で、年齢や性別等は明確に答えていただいておりますが、スタッフの方と3時間にわたって、しっかりコミュニケーションを取られたという方もいらっしゃいました。お一人家族の方も入られてきて、その方は鍵のかかる部屋、個室さくらのほうでスタッフと2時間ぐらいお話をされていました。正直、ネットによる告知のみで、Xやホームページでしか周知していませんでしたが、少しずつ参加される方も増えてきています。まだまだ数が多いというわけではないですが、こちらについても広げていきたいと思っています。

あとは、今日も委員の方々がいますけれども、庁内でも様々なセクションありますので、庁内からもキャッチをして広げて、こんなところがあるよというつながりを持ちたい方がいれば、ぜひつながっていただきたいなというところで思っているところです。

○藤後会長

ありがとうございます。ただいまの報告事項につきまして、ご意見及びご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

私からお伺いしたいのですが、前も伺ったとは思いますが、メタバースについて、これは本当に全国から入ってきても大丈夫なのでしょうか。

○大北課長

登録の段階で住所は聞きません。ご本人なのかご家族なのかのチェックと、どんな名前を付けてもいいニックネーム、居場所

のURLを送るためのメールアドレス。この三つぐらいしか聞かないので、正直、どこから入ってきていただいても、つながれてしまう、つながってオーケーだということになっています。

○藤後会長

ありがとうございます。すごく魅力的だなと思いましたので。

○松森委員

ありがとうございます。セーフティネットあだちです。

実際、確かにこの匿名性のおかげで、もう既に毎回来てくれるという方もいらっしゃる状況ではあります。私たちも、もともとリスクも承知の上で行っていますが、今のところはこの完全な匿名性で皆さん、ふらっと訪ねていらっしゃいます。今のところ直前の申込みが多いという特徴もなぜかあります。原因までは分からないのですが、オンライン居場所開始の数分前に申込みがあり、すぐにマニュアルを送ると、5分後には居場所に入っている、といったこともありました。

ただ、それぐらいの気軽さで使っているのも、私たちが目標にしていたところなので、引き続きこちらにも注力していけたらと思っております。

○藤後会長

ありがとうございます。

上田委員、何かございますか。

○上田委員

今、松森委員からもありましたが、直前の申込みというのは本当に多いので、逆に申込みがないほうが参加しやすいという声

があります。その理由としては、実は、明日イベントに行きたいけれども、ぎりぎりにならないと体調がどうなるか分からないということで、それでも参加できますかという声が、やはりご本人から届くんですね。ですから、今回のこの完全なる匿名性と直前の申込みを受け入れてくれるというのは、こちら側から、ご本人の側からすると、とてもありがたいと思うので、ぜひそのようにギリギリの申込みも見ていただければ。それは、例えば開始 1 分前とかでもいいんですか。

○松森委員

1分前というか、開始後でも参加できます。

○上田委員

開始後でもいいんですね。

○松森委員

もしかしたら誤解させてしまうかもしれないと思ったのが、オンライン居場所に参加するのに毎回申込み必要は全くありません。オンライン居場所へのアクセス方法を広く周知してしまうと、さすがにリスクが大きくなり過ぎてしまうので、参加してみたいという方にだけ、アクセス方法をお送りしています。申込みは最初の1回のみで、一度ご連絡いただいた後は自由参加になっています。2回目以降の参加については、申込みや事前の連絡は必要ありません。

○上田委員

そうなんですか。アドレスや入室方法は毎回同じなんですか。

○松森委員

URLは同じですが、そちらはお申込み

していただいた方のみで共有しております。

○上田委員

ありがとうございます。

もう一点だけ。5ページ下にある「既存の居場所登録者の方もお手伝い（ピアサポート）として数名が参加予定」と書かれているところですが、もし具体的にいつ頃からどんなイメージになるのか、何か決まっているところがあれば、教えていただきたいなと思いました。

○松森委員

実は、既存の利用者の方で、居場所登録されている方の中から2名申込みをいただいています。そちらの方々は、ご自身たちも最初はもう月1回絶対行くぞというところから、現在はイベントもフル参加の状態で、スタッフだけではなく、ほかの利用者の方々とのコミュニケーションも少しずつ多くなっているというところから、オンライン居場所でもちょっと先輩として、少し先を行っているので、次の一歩のお手伝いをしたいということで、登録はしていただいております。ただ残念ながら、2名の方とも、生活リズムがオンライン居場所の時間帯と合わないところもあって、まだ実際にピアサポートとしての活動は行っておりませんが、今後そうした形でお手伝いいただくような方々を増やしていけたらなと思っています。

○上田委員

ありがとうございます。楽しみです。

○松森委員

ありがとうございます。

○藤後会長

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、続けてまいりたいと思います。皆様、ご意見ありがとうございました。

では、本日のメインの議事事項に移りたいと思います。

議事事項の 1 番、「ひきこもりに関する各種調査について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

○大北課長

まず、おわびですが、今回の別紙 1、2、3 の分量が多く、本来であれば事前にお送りをして、皆様に見ていただいた上で議論できればよかったですのですが、事務局でギリギリまで手を入れていた関係で、今日の席上配布になってしまいました。本当に申し訳ございませんでした。ぜひ今日、もちろんお気づきの点はお聞かせいただければと思いますし、持って帰って見ていただいた後に、お気づきのところは電話でもメールでも結構ですので、ぜひ事務局まで教えていただければと思いますので、よろしく願いします。

三つの調査を今年度は行いますが、その概要について、一括して事務局からお話しさせていただきます。

次第から始まる資料の 6 ページ、7 ページからお願いいたします。

今回行います三つの調査は、令和元年、平成 31 年度以来に、足立区独自で行う推計調査が一つ。

もう一つは、セーフティネットあだち、足立ひきこもり家族会にもご協力いただき、実際にセーフティネットあだちや家族会とつながっている本人ないし家族に直接行わせていただく調査。これが二つ目。

三つ目が、これは昨年度の協議会ないし部会でもご意見がありました。関連する介護の事業者に向けた調査。

この三つを行うというところで、今年度予定しております。

まずは、6 ページ、7 ページ、こちらが推計調査になります。平成 31 年度、令和元年度以来となる調査となります。コロナ禍を経て、どれぐらい足立区でひきこもりに関する変化があるか、経年の変化を捉えるとともに、最新の傾向等を把握していくものです。

内容につきましては、6 ページの真ん中に、区内在住の中学生を除く 15 歳以上から 64 歳以下の男女を無作為に抽出します。平成 31 年度、前回の調査は 3,500 人でしたが、少し母数を増やして 5,000 人というところで今回、予定をしております。区内満遍なく聞きたいと思っておりますので、足立区全域を 15 程度のブロックに分けて、そこから抽出をします。

前回は紙だけ、郵送で送って郵送返信だけでしたが、今回はオンラインと併用で行います。それが、この別紙 1 と書かせていただいている「足立区生活状況・意識に関するアンケート調査」となっています。

タイトルを「ひきこもりに関する調査」としてしまうと、「うちはもう関係ない」となって、もうアンケートの入り口だけで送っても答えていただけないという可能性も考えました。前回は「足立区の生活状況に関する調査」というタイトルでしたが、今回意識的なところ、国のアンケートの名称も考慮に入れまして、「生活状況・意識に関する調査」としております。

別紙 1 の内容につきましては、内閣府も実は調査をやっております、直近の調査が令和 4 年度というところになります。そ

の内容に準拠しながら、足立区の中でも少し選択肢を増やしたり、そんなところで今、案を作成しているところです。

今日、なかなか 1 個ずつ中身を見られないんですけども、これまで 2 回、支援検討部会のほうで、もう既に内容については検討を始めております。

一度、事務局からお示しさせていただいた案に、支援検討部会の皆様から意見をいただいて今、この形になっております。本当にこれは非常に分かりづらくて恐縮なんですけれども、別紙 1 の 3 ページを見ていただければと思います。

3 ページの「Q3 現在あなたと同居している方に丸をつけてください」という設問で、こちらの選択肢「7 親族」と、ちょっと斜めの文字になっていて色が薄くなっているのが何となく分かっていたらと幸いなんですけれども、実はこのテイストになっているものは、部会から意見があって、これは親族という言葉を追加したほうがいいんじゃないですか、というものを反映しています。以降も、斜めの字体になって少し色が薄いものについては、部会の皆様から意見いただいたものを今、反映して、この形に今なっています。

なかなか 1 問ずつ設問を見ることはできませんが、少しこの調査について検討していきたいと思っております。

今回主にご意見をいただきたい内容として、別紙 1 の 10 ページをお願いします。

「Q24 あなたは、ふだんどのくらい外出しますか（○は一つだけ）」というところで、選択肢 1 から 4、これは内閣府調査と同じ文言ですけども、「ふだん家にいるけれども、自分の趣味のときだけ外出する」「近所のコンビニなどには出かける」。この 1 から 4 にお答えになった方について、

後ほど、どういう状況になっていますとか、それはいつ頃からですかというふうに、ここがひきこもりの内容に関する調査になっています。この期間とその状態、外出が今の状況になった理由ですとか、その辺りについて、この 10 ページ、11 ページ辺りから進んでいくというような調査になっています。その辺りを掛け合わせながら、分析傾向を見ていきたいと思っています。これが別紙 1、推計調査になります。

続いて、次第から始まるほうの資料の 8 ページ、9 ページをお願いします。

こちらは前回にはなかったもので、この令和 7 年度、新しい調査になります。ひきこもり本人、家族への調査というところで、現在セーフティネットあだち等につながっている、または過去につながっていた方も含みます。ひきこもり本人、またはその家族を対象に聞かせていただきたいと思っています。

ひきこもりの背景ですとか期間、支援に望むこと、家族とのつながり等々で、より詳細に把握したいというところ。あとは年代のところ、先ほど 40 代、50 代のひきこもりの方についてお話が出たというところもありますので、この辺りについて把握をしていきたいのでご協力いただければと思います。こちらは個別に渡します。つながっている方は分かっていますので、個別に手渡しで渡していきます。

内訳としましては、今のところ、7 月 11 日現在で 159 名、本人 44 名、家族 92 名。令和 6 年 4 月以降利用がない方も含みますけれども、そういった方々に個別にアプローチしながら渡していきたいと思っています。家族会の皆様にもご協力いただければと思っております。こちらについては同じように紙もしくはオンラインで回答できれ

ばと思っております。

9ページのほうに、本人の性別、年齢から始まって、先ほどの推計調査では聞けないような、かなり踏み込んだ、詳細な内容を聞くようなアンケートになっています。

先に概要を見ていただきます。次の10ページ、11ページをお願いします。

こちら令和7年の新しい調査で、関連事業者への調査と呼んでおります。

昨年度の協議会や支援検討部会でもご意見いただきましたが、介護関係の事業者が業務において、ひきこもりの当事者ないしその家族と関わる中で、どれだけ現場で困っていたり、なかなか支援につながっていない実態、特に8050世帯ですと、40代、50代のひきこもり状態にある方を現場で目にしているところがあるのではないかとということで、事業者にアンケートをお願いするものです。

足立区内の25か所のハウカツと、実際にその家庭の中に入って支援する方たち、居宅介護支援事業所、訪問看護、訪問介護の事業者の方々。これで約500を超える事業所になります。こちらにメールで送らせていただいて、事業所単位でお答えいただこうと考えております。

こちらは事業者ごとに、メールで返信していただくか、もしくはオンラインで回答いただくことを考えております。

質問項目は、推計調査や本人調査等に比べると減りますが、実際に事業所として、その世帯に関わる中で気づいたことありますか、といったところから入って、そのときにどうしたか。つないだのか。家族が、今はそっとしておいてほしいと思ったので静観しているとかですね。あとは、フリー記載で、どんな事例があったと書いていただけるような、そんなアンケートで今、考

えております。

分量が多くて恐縮ですが、それらをまとめましたのがこの別紙1、2、3のアンケートになっております。

調査は支援検討部会で2回検討させていただいて、今の案となっています。今回、協議会委員の皆様にご意見をいただいた後、さらに部会ももう一回予定をしておりますし、協議会でも書面でもう一回見ていただく機会を設けたいと思っておりますので、今日はこの概要だけ、まず説明させていただきます。

事務局からは以上になります。

○藤後会長

ありがとうございます。なかなか分量が多いですので、すぐにとすることは難しいかもしれませんが、現時点で何かお気づきの点等がございましたら、ご意見も含めてお聞かせいただければと思います。ちょっとじっくり見てください。

何点か私からよろしいですか。私もまだ少し、きっちり読み込めていないのですが。例えば別紙1の13ページに、学校についてという項目があると思うんですが、これは、過去形と現在形が交ざっています。もちろん選択肢の中で経験した、または現在経験しているという教示文ではあるんですが、「～について行けない」、「～悪い」という現在形の表現と、「～を受けた」という過去形の表現と、あえて交ぜているのでしょうか。その意図があれば、教えていただければと思います。

○白水係長

事務局の白水です。

過去形と現在形が交ざっているというご指摘については、より広く拾うというところ

ろで、そういう形になっているかと思えますけれども、細かいところまでは想定していないところがありましたので、そこはもう一度内容を確認した上で、次回までに整えたいと思います。

○藤後会長

ありがとうございます。よく現在形で書いておいて括弧して過去形を記載するなど、どちらでも回答できるような工夫も可能ですので、ご検討いただければと思います。

次に別紙2の、7ページのQ14を見ていただくと、これもちょっと細かい点で申し訳ないんですけども、選択肢15だけが動詞で終わっています。他の選択肢は名詞で全て整えています。ここだけ動詞になっていますので、文言の調整というものもご検討いただければと思います。

続けて、ページが戻りますが、6ページのQ13が「あなたがふだん楽しみに思っていること」、この内容と5ページのQ11「あなたがふだん自宅でよくしていること」が、同じような内容になっていると思います。そこでQ11の「自宅にいるとき」とは、「家の中にいる時だけ」のことなのか。Q13には選択肢に「散歩」なども入っているので、家の中での活動をQ11では問うているのか、もう少し広く問うているのか。Q13との関連を踏まえて、もう少しご検討いただければと思います。

また、4ページのQ8「不登校のきっかけ」。これは国の調査を参考にされていると思います。体の不調に関して、現在の案では「その他」の選択肢に入ることになると思いますが、不調により不登校に至る場合もあるので、身体面の不調について、新たに選択肢として入れてもいいのではないかと思います。

Q6「あなたが最後に卒業した～」の設問の選択肢2「高等学校」について、この表現でも構わないのですが、今は通信制の高校も増えていますので、あえて分ける必要はないかもしれませんが、選択肢として加えてもいいかもしれませんが、今は通信制や定時制に行く子も多いので、合わせてもいいし、分けてみてもいいのかなと思います。

○大北課長

ありがとうございます。別紙2のQ14や、Q11・13の内容については、今一度内容を精査します。申し訳ございません。

別紙2の4ページの部分については説明が漏れておりました。4ページの中の選択肢の中で、「その他」「ニート」「生活リズムの乱れ」と網掛けになっている文言については、支援検討部会でも検討していて、「生活リズムの乱れ」という表現はどうかなど、ペンディングになっているところですが、先ほど藤後会長が仰った「身体の不調」についても、選択肢に入れるか、「その他」として書きやすいように具体例を示すか。分かりやすいよう工夫したいと思います。Q6についても、選択肢6「その他」にマーカーがついていますが、今フリースクールとか、色々な形がある中で限定的になってしまっているため、選択肢を増やしたほうが、より答えやすくというか、空欄のまま返ってこないんじゃないかというご意見もいただきましたので、先ほどの通信制だったりフリースクールだったり、本当に色々な学び方がありますので、その辺り、選んでいただけるような工夫をしていきたいです。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかに、ぜひご

意見をお願いいたします。

氏家委員、どうぞ。

○氏家委員

家族会の氏家です。よろしく申し上げます。

別紙 2 の本人・家族調査のところで、丸で囲んである「セーフティネットあだち」や「足立ひきこもり家族会」につながっている本人またはご家族と回答をお願いしておりますというのがありますけど、それに関して、特に家族会に名簿を出してもらいたいとか、そういったこともまだ聞いていないんですけども、どんな形でされるのかを伺いたいと思います。

○大北課長

ありがとうございます。詳細はまだ詰めていなくて申し訳なかったんですけども、全員に送るというよりは、むしろ今回手渡しで行ったほうがいいかなと思っているので、逆に家族会さんの中で、この方法だったら一番渡しやすいというところがあれば、渡し方はぜひご相談させていただきたいと思っています。お願いします。

○氏家委員

承知しました。

○上田委員

これは部会でも申し上げたんですけど、まず 1 点目は、やっぱりこの調査を受けることによって、やはり調査は答えるだけでもとてもエネルギーを使います。これを受けることのメリットといえますか、例えば自分がひきこもっていたり、そのご家族だと想定して、やっぱり情報が欲しいというところですね。これを受けたことによっ

て、今の悩みが少しでも解消できるような、セーフティネットあだちの情報などを掲載してはいかがでしょうかと、先日部会でもちょっと提案したんですが、そういったご予定はまだここには反映されていないと考えればいいのか。別紙で何かセーフティネットあだちのリーフレットも同封されるのか、何かそういう計画があれば、お伺いしたいというところがまず 1 点目です。

あと、もう一点目は、Q5 の衣・食・住の物質的な生活水準、暮らし向きですね。これは、選択肢の「上の上」とか「中の上」、こういう言い方は一般的なのか。私は今まで他の調査を見てもちょっと確認ができなかった。これはあくまで「主観的なあなたの実感でお答えください」と書かれています。KHJ の実態調査を参考にあげると、例えば世帯年収でしっかり数字として出すのか。結構これは難しいなと私自身はやはり感じて、ちょっと先日も意見させていただいた次第です。この 2 点について、よろしくお願いします。

○白水係長

まず、セーフティネットあだちの情報については、回答者の大半が、セーフティネットあだちの利用者の方のところなので、アンケート自体に載せていくというよりは、例えば家族会の方には別途リーフレットであるとか、そういった情報のほうを提供させていただければなと思っておりますが、そこも部会で改めてご相談させていただければと思います。

つぎに、Q5 の暮らし向きの話なんですけれども、実は、前回の足立区の調査を行った際に、有識者の方との企画会議を行い、その中で、例えば暮らし向きが自分の中では「中の上」とか「上の下」ぐらいかなと

思っている方が、例えば選択肢が「上」「中」「下」しかない、と、大体みんな、「中」に答えが偏ってしまう。逆に、自分はひょっとしたら「下の上」ぐらいかもと、という方も、上中下しか選択肢がないと、やっぱり「中」に偏ってしまうという傾向がある。上の上から下の下までの選択肢をあえて置くことによって、もう少し細かく、正直に答えてもらえるだろうというご意見を踏まえた上で、前回もこの分類でやらせていただきました。なので、答えやすくするために、あまり自分で上の上とつける方はあまりいないかもしれませんが、逆にこれがあることによって、上の下とか、中の上といった選択肢も選びやすくなる、という話がありました。

あとは、収入を具体的に聞くのは、個人情報にも関わるので、逆に答えてもらいにくくなるかなというところもありましたので、大まかな印象というところで、今回はこの設問とさせていただきます。

○上田委員

ありがとうございます。実は、やはりこの貧困率というのは絶対的なものと相対的なものがあるかと思うんですね。先ほど、なぜ世帯年収と言ったかという、この暮らし向きというのも、私は、主観で行ったときに、なぜ足立区がこれを知りたいのか、まずちょっと疑問でした。

例えば生活保護の世帯であっても、人間関係に恵まれていれば、上の中とつけてもいいわけです。私は、これで足立区が何を知りたいのかもちょっと分からないので、非常に私自身もこれは答えにくいですし、衣・食・住などの物質的な生活水準とは書かれているんですけども、別に古着を着ていてもそれに満足していれば、衣食住の

物質的な生活水準は、私はいいと思う。そういうご本人の満足感ですよ。だから、何を知りたくてこのQ5を設定しているのか、もう少しご説明いただきたいです。

○大北課長

すみません、事務局です。あまりそういうふうに突き詰めて、これがどうという、暮らしの生活状況という調査と絡めているので、というところもあったのかなと推察されるんですけども、前回の令和元年のときにも載せていたとこともあるので、そことの比較でそのまま横引きで載せているというところなんです。ここを何か突き詰めて必ずクロスさせて、例えば下の選択肢 7、8、9を選んでいる人ほど何かとか、そこを突き詰めていくだけではないかなと思っています。

○上田委員

例えば孤独感とか、孤立意識、孤立感が高いと感じている度合いとか、もう少し具体的な聞き方でしたら分かるのですが、特に相関関係を見るような狙いがないのであれば、ちょっと私は回答者の負担感を感じたときにどうかなとは感じております。

○大北課長

そうですね。あとは、どうしても経年の変化を捉えたいところではあるので、コロナも経て、令和元年から6年経過しているというところもあるので、もう一度検討はしますけれども、今のところ、令和元年の調査からの経年を捉えると、ぜひ生活状況調査とうたっているところからも、この間いは入れたいなと思っているところです。ただ、入れた経緯等も含めて、過去の令和元年のときの記録もあるかもしれないので、

少しそこは洗いたいとは思いますが。

○上田委員

分かりました。経年変化ということで、そうすると社会的な状況も変わっているかと思えますので、基準を設けて、多分専門家の方からもあるかと思うんですけども、調査をここからどう分析するのかなというところは、ちょっと気になっています。ありがとうございます。

○伊東委員

この件は、私も前回、なぜそれが入ったかということまでの承知はしていないんですけども、恐らく経済的なところの感覚的なところと、関連性が見えてくるのかどうかというのを恐らく見たかったんだろうなと思えますし、そこは私も今回見てもいいのかなとは思いますが。

これはちょっと分からないです、当事者ではない部分なので分からないんですけども。今、上田委員がおっしゃったように、もう少し細かく分かりやすく書くというのも一つの手だとは思いますが、逆に感覚で答えられるからこそ答えやすいという部分もあったりするのかなと思うんですね。経済ですと、年収が例えば何百万円、何百万円と並んで見ると、確かに分かりやすい部分はあるんですけども、はて、そこで本当に答えられるかどうかというのは、ちょっと逆に私だったらそのほうが答えづらい部分もあるかなという感覚もあるので、これはもしかしたら十人十色かもしれないなとは思ったりはします。

○上田委員

ありがとうございます。答えやすさというところではあるということと、あと、や

はり生活困窮者の度合いの経済的な困窮と、ひきこもりの度合いというところが、もし相関が取れるのであれば、そこは次なる施策につながるのではないかなというところでもちょっと思っております。

○伊東委員

ありがとうございます。

○藤後会長

ありがとうございます。ちょっと私も補足させていただきたいと思うんですけども、前回の調査に多分私も関わっていた気もするんですけども、まずその経済的な困難さというところでいうと、いろいろな分析はできると思うんです。この調査に関しても6ページ、7ページの項目は、量的な調査、相関であったり因果関係を見る内容になっています。例えばQ13等は自己肯定感、他にも幸福感や将来の不安などの項目も経済的な状況が関わってはきますので、ご本人に対してはすごくご負担にはなるかもしれませんが、調査という意味では、もしかしたら一理あると思います。

それと、上中下、具体的な数値ではなくてということに関しましては、やはり数値だとちょっと答えづらい、個人情報というところと、もう一つはこの調査対象になっている方が15歳からなんですよね。15歳からなので、高校生の年代等の子たちが自分の世帯年収を知っているか、というところとも関連すると思っています。

私たちが調査を行う際、上中下というような使い方はよく行います。それは経済的な問題を扱うときや、例えば学歴で言うと、偏差値を扱うときにも主観的な判断かもしれませんが上中下などを用いて実施することがよくあります。

以上、補足にて失礼いたします。

他にいかがですか。何でもよろしくお願
いします。

○田巻委員

教育指導部長の田巻と申します。よろし
くお願いします。

人間関係のところは、Q8のところであっ
たと思うんですけど、人間関係（いじめの
場合を除く）、先生との関係と2点あるん
ですが、私はどちらかというと、友達との
関係、先生との関係、家族との関係、まず
この三つが子どもたちにとって主立った関
係性かなと思ったので、ちょっとコメント
させていただきました。

○藤後会長

ありがとうございます。何かコメント、
ありますか。

○定野委員

関連していいですか。

○藤後会長

はい、どうぞ。

○定野委員

私も選択肢のグループを少しまとめたほ
うがいいかなと思います。順番もばらばら
になっているので、友達の関係、先生との
関係、いじめの関係、家族の関係、そして
その他の人間関係とか、そういうふうに並
べておかないと、あちこち行っちゃって
いるなという印象があります。

それから、藤後会長がおっしゃったよう
に、不登校の要因として体調不良というの
はやはり大きい、とても重要だと思います。

○藤後会長

ありがとうございます。事務局から、も
しあれば。

○大北課長

事務局です。ありがとうございます。

確かに自分で作っていて恐縮でした。一
番最初に人間関係とどんとうたっていなが
ら、また下のほうに行くと、先生との関係
とか、人に関わる関係の部分が出てきてい
たり、学習、いじめというところもあつた
りしましたので、今ご意見いただいた、友
人、知人との関係とか、言い方は考えたい
と思いますけれど、あと家族、体調も含め
て、せっかく5,000人に送りますので、そ
の他の施策にも今回得られるデータを生か
せていけたらと思っています。貴重なご意
見として入れたいと思います。ありがとう
ございます。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにいかがで
しょうか。

○定野委員

一つ前の上中下の話で一ついいですか。

たしか国の調査でも、こういう調査をや
っていて、昔は上中下だけだったのが、も
っと細分化することによって、昔、一億総
中流者社会、あれが批判を受けて、たしか
そんな調査になったんだと思います。

そうすると、足立区の推計調査、それか
ら、ひきこもりの方への調査をすること
によって、比較がもしかするとできる可能
性があると思います。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにいかがで

しょうか。深谷さん、はい。

○深谷委員

KHJの深谷です。別紙3の関連事業者調査、5ページなんですけど、連携状況を聞くのは事例形式になっていましたっけ。ここは、もしかしたら事業者にとっては個人情報保護の関係とかで、書くのに結構ちゅうちょする書き方になるかなと思っています。

例えば、Q8は、個人情報には配慮してお書きくださいとか、どこまでどういうふうに書けばいいのかなというところが、回答する側としては書きづらいんじゃないかなと思うんですよね。連携状況を聞くのは難しいんですが、例えばですけど、記入例とかがあると分かりやすいかもしれない。

「訪問先の8050家庭で、セーフティネットあだちにつなぐことで、セーフティネットあだちの職員と分担してケースを進めることになった」のような、何か例みたいなものを載せたら、もしかしたら回答しやすいのかなと思いました。

たしか私、意見を出していたところなんですけど、部会の書面のところで、このような書き方だったかどうか覚えが無かったため、発言しました。

○大北課長

事務局です。ありがとうございます。

もちろんこのフリー記載のところで、個人情報まで、例えばどここの誰さんというところまで拾おうとは思っておりません。ただ、個人情報を書いてしまう可能性もゼロではないので、一応そこは個人情報は不要とご案内するようにしたいと思います。ただ、スペースもありますので、少し呼び水になるような、こういうことを書けばいいのね、確かにうちもこれあったわという

ところも含めて、各項目で二つほどそれぞれ事例も挙げられると思います。次の部会、もう一回、この協議会でも見ていただきますけれども、伝わりやすい事例を二つほどずつ挙げて、ご案内したいと思います。

○深谷委員

ありがとうございます。

○白水係長

補足としまして、まずQ8の文面については少しだけ変更しております。もともと事例を一つの枠で書いてもらおうとしていたのですが、今回調査を委託する事業者の方から、書いてもらいたい事例が「つなげたい事例」「連携がうまくいった事例」「困難な事例」の三つに分けられますが、これを一つの枠に全部入力されてしまうと、後で集計するときに、分類するのがなかなか手間だということで、事例ごとに枠を設けるという変更させていただきました。以前の部会でお示ししたのからだいぶ印象が変わったかと思います。

○深谷委員

ありがとうございます。それで何かちょっと、あれ、どうだったかなと思ってしまいました。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

今回いただきました意見を踏まえて、9月18日に開催されます支援検討部会で再度、内容について検討し、後日、最終案を书面開催の形で皆様にお示しできればと考えております。事務局には引き続き実施に向けて庁内調整等準備を進めていただきたいと思います。

思います。また、本日お伝えし切れなかったご意見やご質問に関しましては、明日以降でも構いませんので何かお気づきの点がございましたら、事務局までお寄せいただければと思います。

では、続きまして、議事事項2「令和7年度ひきこもりの理解と支援のためのセミナーについて」、事務局より説明をお願いいたします。

○大北課長

1点だけ説明が漏れてしまいましたが、別紙2の本人・家族調査は、本人とつながっている場合もあれば、家族としかつながっていない場合もあります。別紙2の3ページにあります。家族の方がお答えいただく際は、本人の視点で分かる範囲で回答してくださいというご案内をしております。親、例えば保護者から見てお子さんのことを答えるのであれば、子が何歳で、自分と同居している場合に母が答えるものであれば母に丸をつけてというような、家族が本人の視点で答えていくということを予定しています。必ず家族を通じて本人に渡してくださいというわけではありません。家族だけとつながっている場合は、家族に答えていただくというアンケートになりますので、ぜひその視点でも見ていただければと思います。

どの調査でも、答えにくい質問は無理に答えていただかなくて結構ですというところでアナウンスしていますので、特に別紙2をお渡しする際、こちら個別に直接渡すケースもございますので、その際にはその辺りのアナウンスも含めて丁寧に進めたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、次第から始まる資料の12ページをお願いいたします。

こちらは「令和7年度 ひきこもりの理解と支援のためのセミナーについて」ということで、今年度は区主催で、11月16日の日曜日の午後の時間帯で今、予定をしております。新しく江北にできました「すこやかプラザ あだち」の3階、こちらを使わせていただいて開催します。

令和6年度は「こども支援センターげんき」の5階を使わせていただいて、今年2月に行いました。少し真ん中の太枠で囲わせていただいている部分に説明がございます。前回につきましては、ひきこもりの経験者で、現在はセーフティネットあだちを受託している会社の社員として支援に携わっているの方に講師をしていただきました。講演後に講師の方、家族会、あとは支援機関に携わる方々とのトークセッションというような形でやらせていただきました。動画の再生についても、少しずつ伸びているというところです。

その中で取ったアンケートでも、12ページの下にあるように、やはりひきこもり経験者による講演を聞きたい、聞いてみたいという意見が一番多くございましたので、今回、詳細はこれから詰めますけれども、ご経験がある方についてセーフティネットあだちの受託事業者である株式会社キズキと、内容について、人選含めて進めているところがございますので、また決まりましたら、ご案内含めて、協議会の委員の皆様を送らせていただきます。これに先駆けて、来月9月15日は家族会主催の特別講演会がございますので、ぜひ冒頭にも申し上げましたが、チラシを置かせていただいていますので、お持ち帰りいただければと思います。よろしく申し上げます。

○藤後会長

ありがとうございます。こちらに関して何かご意見やご質問等ございますでしょうか。

○上田委員

ありがとうございます。

今後参加したいと思うセミナー内容の一番多いのが、ひきこもり経験者による講演ということで出ております。今度の家族会特別講演会でもそうなんですけれども、ひきこもり経験者を選ぶ際に、実は私もいろいろ考えたんですが、本当に多様です。経験者の年代も20代、30代、40代、50代。しかも、ひきこもった年数も多様ですので、この経験者を選ぶ際に、私どもも今回2名、経験者の方をお呼びしました。

○大北課長

せっかくなので、チラシを皆様にお配りしましょうか。

○上田委員

もしよかったら配っていただけるとありがたいです。

あとは、3名の家族の経験者が話します。家族も背景が多様ですので、お一人に限らず、いろんな方、あとは男性と女性を配すとか、そういうところもちょっと11月まで間もないですけども、工夫をしていただけるといいのかなと思っております。

やっぱり様々なお立場の方のお話がよかったというのもアンケートにあったと思いますので、経験者の講演の後はちょっとまた、座談形式というのもいいのかなと思いました。ありがとうございます。

ありがたいことに家族会のチラシは、足立区長との広報の写真もお借りして掲載さ

せていただきますが、氏家委員も載っておりますので、一言、いいですか。

○氏家委員

参加したいと思うセミナー内容の中で、家族に関する内容が全然出ていないのはちょっと複雑な思いでおります。家族というのをどういうふうに参加された方が思われたのかなと思って、その辺がちょっとまだ家族会としていろいろ考えなくちゃいけないかなとは思いました。

以上です。

○上田委員

項目に家族に関するものはなかったのでしょうか。

○大北課長

過去にたしか協議会のときにアンケート結果を載せた気もいたしますが、ちょっと今、手元で詳細が確認できません。ただ、せっかくアンケートを取るのだから、家族会からも、今回も一緒にやらせていただくので、ぜひこんなことを選択肢に入れて欲しいとか、ここをキャッチできるといいとか、一緒に考えたいと思います。ありがとうございます。

○藤後会長

ありがとうございます。そうですね。家族会も、アンケート項目にぜひ入れていただければと思います。

ちなみに令和6年度のセミナーの動画はまだ見られるんですか。

○白水係長

動画は現在も公開しておりますので、いつでもご覧いただける状況です。区のホー

ムページから「動画 d e あだち」で選択していただければ、ひきこもりの講演とトークセッション、どちらもご覧いただけます。

○藤後会長

ありがとうございます。大体よろしいですかね。質問等ございませんかね。

皆様、ここまでいろいろご意見、ありがとうございました。

それでは、時間が限られていますけれども、次第 5 の意見交換に移らせていただきたいと思います。全体を通じてのことや、委員の皆様のそれぞれの分野の関連を含めて、10 分程度、意見交換をさせていただきたいと思います。また情報共有でも構いませんので、ぜひ最近の様子やご意見について何かご意見がありましたら、お寄せください。いかがでしょうか。

私から一言、お願いという形で、まだ今日ご発言というか、お声を聞いていない方ということで、鈴木委員、よろしいでしょうか。何かコメントというか、ご意見やご感想で構いませんので、よろしく願いします。

○鈴木委員

東京都の鈴木でございます。本日はありがとうございました。

足立区にて今回アンケート調査を実施されるということで、それぞれ対象を区分けし、会議資料別紙 1 のとおり、広く無作為に調査を実施するところだと思います。現在、東京都では本人の支援はもちろん、それと並行して、いまだにひきこもりに対する社会的な偏見が残っていることから、その偏見をなくすような広報活動を実施しており、庁内の広報戦略所管部署と連携しながら、今後どのように効果的な宣伝ができ

るのかということを検討しています。今回のアンケート調査では難しいとは思いますが、もし可能であれば、足立区民の方がひきこもりに関して、どのような印象を持たれているのかなども踏まえて調査を実施していただけると、違った角度でひきこもりに関する新たな発見ができるのではないかと思います。今後、このような観点も加えてご検討していただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

○藤後会長

ありがとうございます。すごく貴重な意見だと思います。例えばひきこもりのイメージが、経年によって変化していくということがあれば、この審議会であったり、協議会であったり、その支援内容の効果測定としても使えるかなとは思ったりもしました。

○大北課長

ありがとうございます。事務局です。

実は今回の調査で三つの矢を放つんですが、この話を庁内にしたときに、あくまでやっぱり 70 万人分の内の 5,000 人なので、例えば今回の調査とは別に、オンラインだけで、例えば 1 か月とかで区切って、家族でも本人いいので、実はこんな苦しみがあるんです、生きづらさがあるんです、みたいな思いをフリーで書いていただけるようなアンケートがあってもいいんじゃないかというところで、意見もいただいたところだったんです。この期間これだけ、例えばホームページにこんなところを設けているので、ぜひあなたの思い、生きづらさを聞かせてくださいみたいな、それも多分オンラインだったらできなくもないなと思ってるところなので、そのときにイメージ調

査という言い方がいいのか、もしくは何か、やっぱり偏見をなくしていききたいというのは私たちも思っているところですし、足立区の基本的な考え方でも謳っているところなので、何かちょっとできる形を考えたいなと思います。ありがとうございます。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

オンラインで出席いただいています河野委員、いかがでしょうか。

○河野委員

河野です。今日はオンラインで申し訳ありません。

アンケートに関しては、国もそうですし、色々な自治体で、ニーズとかも含めて調査していると思うんですけど、我々支援団体としても、ニーズは刻々と状況が変わってきているので、どういう支援が求められ、団体としてどこに舵を切っていったらいいのかなというのは、ぜひ知りたいと常々思っています。利用している方々やご家族であったりとか、当事者の方にもいろいろお話を聞きながら進めています。

あとは、なかなか広くご意見を聞くというのは難しいので、できればこういう機会にどんどん深掘りしていってもらえればなと思うのと、先ほど体験談のお話もありましたけれども、もともと支援を受けてその後、社会的に自立していった方々が、一体どういったことが有効だったのか、初期段階、中期であったり、後半のほうであったりを知りたいと思います。そういった部分もぜひうまくアンケートを取れるとよろしいのかなと思っています。そこに何かしら支援に繋がる重要なヒントがあるんじゃない

いかなと思っています。そういう機会もつくっていただければと思います。

○藤後会長

ありがとうございます。事務局で何かコメントはございますか。

○大北課長

今の予定では10月下旬ぐらいに発送予定です。アンケート3本ともそれぐらいの時期で発送する予定です。年内で回答いただいて、そこから事業者の力を借りながら分析に入ります。恐らく、次の協議会、皆さんとこうやって顔を合わせるのは、最後ご案内しますが年明けの2月を予定しています。そのときは分析の速報になると思います。詳細をどこまで分析できているかわかりませんが、その結果を踏まえた議論がメインになるかと思います。そのときに、今後のひきこもり支援に資するようなことをまとめたいと思いますので、よろしく願います。ありがとうございます。

今後の貴重な資料になっていくと思うので、ぜひ共有させていただければと思います。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

松森委員、せっかくですので学びピアに移転した後の状況について、何か感想とか、今の感触などがあれば、共有していただければと思います。

○松森委員

ありがとうございます。改めてセーフティネットあだち、ご見学などもいらしていただいたりはしているんですが、本当にやはり3月までと、まず物理的に広さが違う

ということがやはり私たちの運営上大きな影響がございまして、実際、人数が増えているというところも、3月までですと小さな部屋だったので、どうしてもほかの方がいない時間というご希望者が圧倒的に多いことから、人数の制限なども必要だった日もあったんですけれども、現在は広いので、1人でとおっしゃっていらながらも、視界の中にもう1人、2人、別の方がいらっしゃって話している声が聞こえないというところから、むしろちょっと喫茶店などに似たような感じで、より居心地のよさなどを感じてくださる方々も正直、私たちが想定していた以上に多い状態になっております。

先程ご質問にあった、どれぐらい、皆さんは長く通われているかというところで、少なくとももう3分の2以上の方が1年以上はご利用、ただこのご利用と言ったときも使い方は様々なので、それこそ数か月に1回の方もいらっしゃれば、毎週1、2回の方もいらっしゃるところにはなるんですけれども、やはり回数頻度が高い方々、私どもが開始してこの1年半たった段階で、やはり大きく変化されていらっしゃる方が増えてきたなというところを実感しております。ちょうど数か月ぐらい前からはイベントという中でも、単に安心安全、楽しさというところにプラスアルファで少し学びの要素、例えば自己理解、他者理解を深めたり、元当事者の方に混じっていただいて、そうしたところの学びの時間をつくれるようになってきたのが最近の変化かなと思います。

○藤後会長

ありがとうございます。

ほかに何か皆様方、ご意見であったり情報共有であったりご感想、今日、本日の全

体を含めてのご感想等がございましたら、いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。次に皆さんとお会いするのも年明けになってしまいますので。

定野委員、最近の様子はいかがですか。

○定野委員

この9月にまた転入生が入りまして、いよいよ本校も100名の子供をとということになりました。最終的に240名を目指しているんですけども、前にお話ししたかもしれませんが、本校がその不登校の子どもたち全てを引き受けるような学校ではないということで、全て引き受けるのは実は公立の学校の役目でありますから、そのところにどれだけ私どものやってきた実践をお返しできるのかなということで今、腐心しているところです。4月にいろいろな仕組みを新たに入れてたり、いわゆる別室に登校してくる子どもたちをどうフォローして、教室につなげるのかとか、そういった試みもやっておりますので、またどこかでご紹介できればなと思っております。ありがとうございます。

○藤後会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、皆様、ご意見、ありがとうございます。今回いただいたご意見を事務局のほうで取りまとめていただいて、部会での詳細な検討を踏まえて、今後のひきこもり支援に生かしていただければと思っております。

それでは、次第6の今後のスケジュールについて、事務局よりお願いいたします。

○白水係長

先ほど概ね、課長から内容について説明がございましたが、まずはひきこもり実態調査に関しましては、9月18日開催の部会で再度検討させていただきまして、その検討内容をまとめて、協議会の皆様に書面で開催という形で、なるべく早く送りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また繰り返しになりますが、9月15日、家族会の主催の講演会がございますので、ぜひ皆様、お時間あればご参加いただければと思います。

12月に調査票は回収させていただきまして、その分析結果を年明けの部会、それから協議会で皆様にお示しできればと思っております。

協議会は、2月25日水曜日を予定しております。今回の会場であるこの特別会議室が、来年の3月まで改装工事に入っている関係で、会場を調整中でございます。会場が決まりましたら、皆様に早めにご案内をできればと思っております。よろしく願いいたします。

○藤後会長

ありがとうございます。

では、何か本件に関しまして質問等ございますか。よろしいですか。

では、以上で本日予定しておりました協議会の内容が終了いたしましたので、進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

○大北課長

藤後会長、議事の進行、ありがとうございます。また、委員の皆様も多くのご意見を本当にありがとうございました。

部会をもう一回やって、皆様に書面で諮って、そこで意見をいただいて、最後、これで行きますは、共有として皆様に送らせていただきたいと思います。区民の皆様や、事業者の皆様の手が届く前には、この内容でいつから配りますというところは書面開催が終わった後も含めて、必ず共有したいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、今日いただいた宿題とご意見を検討して頑張りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、最後に閉会といたしまして、協議会の副会長、勝田副区長から閉会の挨拶をお願いします。

○勝田副会長

本日もたくさんの貴重なご意見いただきまして、本当にありがとうございました。今日の議事のメインとなりました質問についても、所管のほうでは頭を悩ましながら、どうやったら当事者の方々に声が届くのか、その人たちの実態が把握できるのかと工夫しながらいろいろと設問を設定しております。

先ほど上田委員からお話があったように、多様な方々がいる、ひきこもりになった環境や理由も様々ある中で、どうやったらその人たちの本当の現状が把握できるのかというところを調べる第一歩だと思っております。調べて終わりではなく、調べた後に、どういう手を差し伸べる支援策があるのか。ここから今スタートラインに立ったんだから、まだこれから立つのか、まだちょっと微妙なところですが、これからも皆様の大きな貴重な意見をいただきながら支援策をどんどん進めていきたいと考えております。今後ともぜひ貴重なご意見を賜りますよう

に、よろしく願いいたします。

以上になります。本日は本当にありがとうございました。

○大北課長

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和 7 年度第 1 回ひきこもり支援協議会を閉会とさせていただきます。各委員の皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。お疲れさまでした。